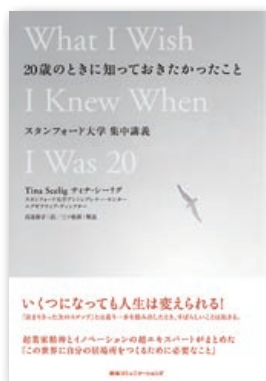


# 書籍紹介



ティナ・シーリグ 著  
株式会社阪急コミュニケーションズ 刊

## 「20歳のときに知っておきたかったこと」 スタンフォード大学 集中講義



この本の著者であるティナ・シーリグは、スタンフォード大学医学部で神経科学の博士号取得というバックグラウンドを持ち、現在は、同大学工学部に所属するアントレプレナー・センター、スタンフォード・テクノロジー・ベンチャー・プログラムのエグゼクティブ・ディレクターである女性です。

さらに、彼女は、同大学の経営工学・エンジニアリング課程やハッソ・プラットナー・デザイン研究所でアントレプレナーシップとイノベーションの講座を担当しており、この彼女のスタンフォード大学での講座は、全米の起業家育成コースでもトップクラスの評価を得ている講座です！

この本は、そんな彼女が、同大学の企業リーダープログラムで、学生向けに話をするよう依頼を受け、「わたしが20歳のときに知っておきたかったこと」と題して講演を行った際、その評判が非常に良かったために（なんと、著者はあとがきで「この講演は共感を呼んだようで、ほどなく世界各地から講演依頼が舞い込みました。」とまで書いています！）、気をよくして、本を書こうと思い立って、出版されるに至った本です。

ですが、この本の本当の始まりは、簡単な覚え書きで、それは、彼女が、自分の息子の16歳の誕生日の時に、大学進学まであと2年しかないのだと、はたと気づき、自分が社会に出たときに知っていればよかったと思うことを伝えておきたいという気持ちが強くなって、自分が社会で自分の居場所をつくるのに不可欠だと思ったことをリストにしたもので、そういう意味で、この本は、純粋な親心から生まれたものであるとも言えると思います（ちなみに、この息子のジョシュは自転車と短距離走の選手だったところ、ある日急に重量挙げの大会に出るといい、デットリフトの全米記録を破ると意気込んで、数ヶ月猛烈なトレーニング

をし、最後には、本当に全米記録を破ってしまったというすごい人に成長しています！）。

さて、本書の内容ですが、そのジャンルとしては、ビジネス&起業家精神&自己啓発に入ります。

おおまかに言うと、スタンフォードの学生や成功した起業家の成功事例を挙げながら、まず1-3章でとにかく常識を疑ってみよと説き、4章で世の中を新鮮な目でみよ、5章でたくさん実験してそして失敗せよと続き、さらに、6-8章で自分自身で進路を描くべし、9章で自分自身の限界を試すべしと述べています。

このように書いてしまうと、典型的なビジネス&起業家精神&自己啓発本のように思われるかもしれません。

しかしながら、この本には、常にその根底に、「あなた自身に（上記1章から9章に書かれているようなことをしていいという）許可を（自分に）与えてください」、そして「快適な場所から離れ、失敗することをいとわず、不可能なことなどないと呑みかかき、輝くためにあらゆるチャンスを生かすようになれば、限りない可能性が広がる」という温かい励まし心が感じられます（これがやはり著者の親心なのでしょうか）。

そして、このようなところが、一般的にいろいろな正論を押し付けがちな自己啓発等の本とは異なるところであって、2010年上半期Amazon書籍部門第6位と（そこそこ）売れている理由だと思います。

何はともあれ、これからすぐにビジネス、起業をするわけでもなくとも、日々の生活、仕事の中で、「光輝くチャンスを見逃すな！！」と前向きにさせてくれる1冊だと思います！

紹介者 特許審査第三部環境化学 川島 明子